

ーシング—FFT スペクトルの中心周波数の高速演算一、第5回 ISCIE, 1989, 5, 京都。

◆ その他

- 1) 藤田正俊：各種疾患と運動，生涯スポーツ活動プログラム，富山県，1989, 86-91。

内 科 学 (3)

教 授	渡 邊 明 治
助 教 授	井 上 恭 一
講 師	田 中 三 千 雄
講 師	斎 藤 清 二
助 手	樋 口 清 博
助 手	山 崎 徹 学
助 手	康 山 俊 一
助 手	青 山 圭 樹
助 手	窪 田 芳 嗣
助 手	稻 土 修 弘
文 部 技 官	桑 原 芳 弘

◆ 著 書

- 1) Inoue K., Aiba N., Nambu S., and Sasaki H.: Influence of ethanol on the hepatocarcinogenesis -Site specific demethylation of c-myc oncogene in hepatocellular carcinoma (HCC) of heavy drinkers. In Biomedical and Social Aspects of Alcohol and Alcoholism, by Kuriyama K., Takada A. and Ishii A. (Ed.), 817-822, Excerpta Medica, Amsterdam, 1988. (1988年度追加)
- 2) 佐々木博，高原照美，中山義秀，宮林千春：肝コラーゲンの構成と局在。「肝の生化学」箱根シンポジウム3；肝の線維化・サイトカイン・ビタミン。箱根シンポジウム記録刊行会編，12-22，中外医学社，東京，1989。
- 3) 佐々木博，井上恭一：腹腔鏡・肝生検。「臨床肝臓病学」岡博，杉浦光雄編，106-112，朝倉書店，東京，1989。
- 4) 渡邊明治：肝硬変 病態と対策 合併症と対策 3. 肝性脳症。「消化器病セミナー36」原田尚編，159-177，へるす出版，東京，1989。
- 5) 渡邊明治：脂肪肝。「これだけは知っておきたい“名医の処方”」Modern Physician 編集部編，24，新興医学出版社，東京，1989。
- 6) 渡邊明治：肝硬変のQOLの向上のために—運動と魚食の勧め。「これだけは知っておきたい“診療の秘訣”」Modern Physician 編集部編，51，新興医学出版社，東京，1989。

- 7) 渡邊明治：腹水。「新薬物療法 疾患別：最新処方ハンドブック'90年版」上田泰，清水喜八郎，春見建一編，394-395，メジカルビュー社，東京，1989。
- 8) 渡邊明治：肝性脳症。「新薬物療法 疾患別：最新処方ハンドブック'90年版」上田泰，清水喜八郎，春見建一編，396-397，メジカルビュー社，東京，1989。
- 9) 渡邊明治：門脈圧亢進症。「新薬物療法 疾患別：最新処方ハンドブック'90年版」上田泰，清水喜八郎，春見建一編，398-399，メジカルビュー社，東京，1989。
- 10) 井上恭一：急性ウィルス性肝炎。「肝疾患の管理と新しい薬物療法」市田文弘編，27-33，医薬ジャーナル社，東京，1989。
- 11) 井上恭一，高原照美：病因からみた肝硬変症—アルコールと肝硬変症—。「消化器病セミナー36」原田尚編，33-44，へるす出版，東京，1989。
- 12) 田中三千雄，井上恭一：胃炎の診療における問題。「胃炎治療の考え方」竹本忠良編，142-147，東京医学社，東京，1989。
- 13) 田中三千雄：下剤。「新薬物療法 疾患別：最新処方ハンドブック'90年版」上田泰，清水喜八郎，春見建一編，316-317，メジカルビュー社，東京，1989。
- 14) 田中三千雄：機能内視鏡検査法C. 消化・吸収。「消化器内視鏡マニュアル，改訂第二版」竹本忠良編，441-449，南江堂，東京，1989。
- 15) 田中三千雄：拡大内視鏡検査 C. 十二指腸・小腸。「消化器内視鏡マニュアル，改訂第二版」竹本忠良編，461-467，南江堂，東京，1989。
- 16) 田中三千雄：内視鏡器械・検査・診断の知識とその実際，5. 十二指腸・小腸。「消化器内視鏡技師試験問題解説」日本消化器内視鏡学会，消化器内視鏡技師制度審議会編，432-443，医学図書出版，東京，1989。
- 17) 斎藤清二：論理療法の実際，B，自信のない場合。「論理療法にまなぶ」今村義正，国分康孝編，119-126，川島書店，東京，1989。
- 18) 斎藤清二：論理療法 (RET) にまなぶこと，A，エリス博士との三日間。「論理療法にまなぶ」今村義正，国分康孝編，146-149，川島書店，東京，1989。
- 19) 高原照美，井上恭一，佐々木博，大島章：アルコール性肝疾患の肝線維化過程における血清マーカーと組織との対比—血清ラミニン，P-III-P値とラミニン，III型IV型コラーゲンの免疫組織学的検

- 討一。「アルコール代謝と肝8」211-218, 東洋書店, 東京, 1989.
- 20) 松井俊二郎, 樋口清博, 青山圭一, 井上恭一, 佐々木博: 自己免疫性肝炎の病態: 免疫組織の面より。「肝臓病を理解するための免疫学」伊藤憲一, 西岡幹夫, 辻孝夫編, 77-82, 日本医学館, 東京, 1989.
 - 21) 舟木淳, 樋口清博, 井田一夫, 島田一彦, 田中三千雄, 井上恭一, 佐々木博, 多葉田祥代, 増山淳子, 西野主眞: 潰瘍性大腸炎患者における末梢血リンパ球サブセットの検討。「消化器と免疫No22」, 土屋雅春監修, 101-105, 日本医学館, 東京, 1989.
 - 22) 月城孝志, 宮際幹, 土田敏博, 青山圭一, 康山俊学, 樋口清博, 井上恭一, 佐々木博: 高エコー型肝内結節性病変を認めた原発性胆汁性肝硬変の一症例。「肝腫瘍生検と画像」, 第一回肝腫瘍生検研究会の記録, 谷川久一, 神代正道編, 67-74, 国際医学出版, 東京, 1989.
 - 23) 宮際幹, 月城孝志, 岡田和彦, 青山圭一, 井上恭一, 佐々木博, 市田隆文: 肝細胞癌に合併した hyperbasophilic foci の一症例。「肝腫瘍生検と画像」第一回肝腫瘍生検研究会の記録, 谷川久一, 神代正道編, 96-107, 国際医学出版, 東京, 1989.
- ◆ 原 著
- 1) Inoue K., Konda T., Takashima K., Kuwabara Y., and Sasaki H.: Post-transfusion hepatitis type B: Long incubation period and poor prognosis in compromised hosts. *Gastroenterol. Jpn.* 24: 198-204, 1989.
 - 2) Tanaka M., Inatsuchi S., Inoue K., and Sasaki H.: Duodenal lesions and duodenal blood flow in liver cirrhosis. *J. Gastroenterology and Hepatology* 4 (Suppl 1): 119-122, 1989.
 - 3) Miyagiwa M., Ichida T., Tokiwa T., Sato J., and Sasaki H.: A new human cholangiocellular carcinoma cell line (HuCC-TI) producing carbohydrate antigen 19/9 in serum-free medium. *In Vitro Cellular & Developmental Biology* 25: 503-510, 1989.
 - 4) Aiba N., Nambu S., Inoue K., and Sasaki H.: Hypomethylation of the c-myc oncogene in liver cirrhosis and chronic hepatitis. *Gastroenterol. Jpn.* 24: 270-276, 1989.
 - 5) Matsuzaki K., Yoshitake Y., Matsuo Y., Sasaki H., and Nishikawa K.: Monoclonal antibodies against heparin-binding growth factor /basic fibroblast growth factor that block its biological activity. Invalidation of the antibodies for tumor angiogenesis. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 86: 9911-9915, 1989.
 - 6) Kubota Y., Funaki J., Tanaka M., and Sasaki H.: Electron microscopic histochemistry of binding sites in 1, 2-dimethylhydrazine-colon cancer in mice. *J. Clin. Electron Microscopy* 22: 401-420, 1989.
 - 7) Obata K., Iwata K., Ichida T., Inoue K., Matsumoto E., Muragaki Y., and Ooshima A.: One step sandwich enzyme immunoassay for human type IV collagen using monoclonal antibodies. *Clinica Chimica Acta* 181: 298-304, 1989.
 - 8) 井上恭一, 佐々木博, 康山俊学, 樋口清博, 成瀬優知, 松原勇, 岡博, 戸田剛太郎: 原発性胆汁性肝硬変患者の予後と経過の予測—多変量解析による検討—. *日消会誌* 86: 889-896, 1989.
 - 9) 田中三千雄, 松崎恒一, 佐々木博: 胃酸分泌抑制剤 (H₂-ブロッカー) 投与時における鉄剤の吸収に関する検討—クエンサン第一鉄ナトリウム (フェロミア®) と硫酸第一鉄 (フェログラジュメット®) との比較検討—. *Progress in Medicine* 9: 1687-1690, 1989.
 - 10) 樋口清博, 杉山和子, 井上恭一, 佐々木博, 中野護: 肝硬変および肝細胞癌患者末梢血NK活性に関する研究—Phenotype別の細胞の比率および活性について—. *肝臓* 30: 206-216, 1989.
 - 11) 康山俊学, 月城孝志, 井上恭一: 慢性肝疾患およびアルコール性肝疾患の腹腔鏡所見と血管造影所見の対比. *日本消化器内視鏡学会雑誌* 31: 2872-2876, 1989.
 - 12) 稲土修嗣, 田中三千雄, 佐々木博: 484例の十二指腸炎における臨床的検討. *消化器内視鏡* 1: 403-412, 1989.
 - 13) 愛場信康, 南部修二, 井上恭一, 佐々木博: 肝細胞癌および慢性肝疾患における癌遺伝子 c-myc, c-Ki-ras, c-Ha-ras の脱メチル化に関する研究. *富山医薬大医誌* 2: 31-42, 1989.
 - 14) 正満純子, 能澤明宏, 秋山眞, 秋山舜一: 内科領域における高齢者感染症に対する Cefpiramide (CPM; Sepatren®) の臨床的検討. *診療と新薬* 26: 817-821, 1989.
 - 15) 能澤明宏, 樋口清博, 杉山和子, 月城孝志, 清水幸裕, 宮際幹, 青山圭一, 井上恭一, 佐々木博: 肝細胞癌の門脈腫瘍塞栓に対する LAK 細胞局注療法の試み. *肝臓* 30: 1748-1749, 1989.

- 16) 市田隆文, 宮際幹, 岡田和彦, 畑耕次郎, 佐々木博, 朝倉均: 透過性コラーゲン膜を用いた肝細胞癌侵襲実験モデル作製の試み. *Human Cell* 2: 165-172, 1989.
- 17) 井本勉, 松井俊二郎, 小島隆, 井上恭一, 佐々木博, 大矢美香子, 松本秀敏, 倉田毅: 健康成人にみられた CMV による急性肝炎の肝細胞障害機序に関する免疫組織学的研究. *肝臓* 30: 502-503, 1989.
- ◆ 総 説
- 1) 佐々木博, 樋口清博, 宮林千春, 高原照美, 中山義秀: 原発性胆汁性肝硬変の成因. *胆と肝* 10: 959-966, 1989.
- 2) 佐々木博, 青山圭一, 宮林千春, 高原照美, 中山義秀: 胆汁うっ滞と肝細胞障害. *肝胆膵* 19: 225-233, 1989.
- 3) 佐々木博, 青山圭一, 宮林千春, 清水幸裕, 高原照美: 薬物による肝障害の成因と分類. *臨床消化器内科* 4: 1745-1754, 1989.
- 4) 渡邊明治, 東俊宏, 辻孝夫: 消化器疾患臨床ハイライト [12] 肝細胞癌の血管侵襲—とくに基底膜分解カスケードを中心に. *医薬の門* 29: 238-246, 1989.
- 5) 渡邊明治: ラクチトール. *医薬ジャーナル* 25: 77-83, 1989.
- 6) 渡邊明治: 様変わりする肝硬変の管理「代償期を維持する生活管理」. *モダンメジシン* 18: 35-39, 1989.
- 7) 井上恭一: 慢性肝炎の定義と肝生検組織診断. *医学のあゆみ* 151: 789-793, 1989.
- 8) 井上恭一: 原発性胆汁性肝硬変における癢痒感のコントロール. *医学のあゆみ* 148: 88, 1989.
- 9) 井上恭一: 脂肪肝, アルコール性肝障害. *総合臨牀* 38: 1368-1371, 1989.
- 10) 井上恭一: アルコール性肝障害. *総合臨牀* 38: 941-942, 1989.
- 11) 井上恭一: 一特集“原発性胆汁性肝硬変の診断と治療の現況”—診断基準の変遷. *肝胆膵* 19: 1081-1087, 1989.
- 12) 井上恭一: 原発性胆汁性肝硬変と原発性硬化性胆管炎 治療のチェックポイント. *臨床消化器内科* 4: 1017-1021, 1989.
- 13) 田中三千雄, 稲土修嗣, 若林泰文, 渡邊明治, 佐々木博: 十二指腸炎の内視鏡所見と生検所見の対比. *胃と腸* 24: 1259-1268, 1989.
- 14) 田中三千雄: 緊急内視鏡による止血, 用語解説. *消化器内視鏡* 1: 359-362, 1989.
- 15) 山田明, 田中三千雄, 藤巻雅夫: 超音波内視鏡の現況と将来. *消化器内視鏡* 1: 817-824, 1989.
- 16) 斎藤清二: 大学生の健康管理(心身医学的観点から). *医学のあゆみ* 148: 470, 1989.
- 17) 若林泰文, 渡辺英伸, 舟木淳, 田口恭仁子, 市原和俊, 稲土修嗣, 島田一彦, 井上恭一: 十二指腸炎の組織学的診断基準. *胃と腸* 24: 1231-1240, 1989.
- 18) 舟木淳, 田中三千雄: 色素内視鏡検査の基礎と実際. *消化器内視鏡* 1: 217-224, 1989.
- 19) 舟木淳, 田中三千雄: 胃アニサキス症. *消化器内視鏡* 1: 678-679, 1989.
- 20) 市田隆文, 宮際幹, 月城孝志, 原秀範, 朝倉均: 肝細胞癌の早期診断システム. *肝胆膵* 8: 841-847, 1989.
- ◆ 症例報告
- 1) 田中三千雄, 宮元歩, 坂東毅, 舟木淳, 若林泰文, 渡邊明治: 十二指腸嚢胞の一例. *消化器内視鏡* 1: 1009-1014, 1989.
- 2) 土田敏博, 寺崎禎一, 松崎恒一, 若林泰文, 島田一彦, 坂東毅, 稲土修嗣, 窪田芳樹, 山崎徹, 佐々木博, 小泉富美朝: 食道を中心に多彩な内視鏡像を認めたアミロイドーシス合併多発性骨髄腫の一例. *消化器内視鏡* 1: 255-262, 1989.
- 3) 峯村正実, 青山圭一, 康山俊学, 能澤明宏, 正満純子, 渋谷隆, 市田隆文, 井上恭一, 佐々木博: 体質性 ICG 排泄異常症を合併した Gilbert 病の一例. *肝臓* 30: 805-810, 1989.
- ◆ 学会報告
- 1) Tanaka M., Inatsuchi S., and Inoue K.: Duodenitis and duodenal blood flow in liver cirrhosis. *International Symposium on Portal Hypertension and Digestive Organs*. 1989, 2, Tokyo.
- 2) Takahara T., Nakayama Y., Ito H., Inoue K., Sasaki H. and Ooshima A.: Immunolocalization of extracellular matrix and the mechanism of fibrogenesis in chronic liver disease. *American Association of the Study of Liver Disease (Spring Conference) -Connective Tissue Biology of the Liver*, 1989, 4, Asilomar.
- 3) Ichida T., Higuchi K., Arakawa K., Ohta H., Sugiyama K., Miyagiwa M., Nozawa A., Satoh T., Sasaki H., and Ichida F.: Treatment of hepatocellular carcinoma utilizing lymphokine-induced killer cells and interleukin-2. *Cancer Chemother. Pharmacol.* 23(Suppl): 45-48, 1989.

- 4) Takahara T., Nakayama Y., Inoue K., Sasaki H. and Ooshima A.: Immuno-localization of extracellular matrix in acute viral hepatitis. *J. Clin. Electron Microscopy* **21**: 660-661, 1988. (1988年度追加)
- 5) Kubota Y., Funaki J., Ida K., Wakabayashi H., Nanasawa H., Inatsuchi S., Shimada K., Tanaka M., and Sasaki H.: Light and electron microscopic lectin histochemistry of 1, 2-dimethyl-hydrargine-induced colon cancers in mice. *J. Clin. Electron Microscopy* **21**: 908-909, 1988. (1988年度追加)
- 6) 渡邊明治: 就任講演; 肝性脳症の病態と治療—潜在性脳症を中心に—. 第24回富山医科薬科大学医学学会学術集会, 1989, 富山.
- 7) 井上恭一: 教育講演; B型肝炎ウイルス(HBV)感染における宿主の反応. 第68回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 8) 田中三千雄, 榊信広, 寺野彰, 矢花剛, 吉田行雄, 原田一道, 木村健: サテライトプログラム, 講演座談会, 消化性潰瘍の治療の現況と問題点. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 11, 旭川.
- 9) 井上恭一, 康山俊学: Cu, Zn superoxide dismutase (Cu, Zn SOD) の肝組織内局在とその意義—シンポジウム「アルコールと酵素」. 第24回日本アルコール医学会総会, 1989, 9, 東京.
- 10) 田中三千雄: パネルディスカッション“電子スコープはどこまで進歩したか—現状と問題点—”新しい色彩測定システムによる消化性潰瘍の病期診断に関する検討. 第38回日本消化器内視鏡学会総会, 1989, 11, 東京.
- 11) 斎藤清二: シンポジウム「腫瘍マーカーの現況と展望」多変量解析システムの肝癌診断への応用. 第24回富山医科薬科大学医学学会, 1989, 12, 富山.
- 12) 康山俊学, 月城孝志: 慢性肝疾患における画像診断の進展—慢性肝疾患と血管造影所見—パネルディスカッション慢性肝疾患における画像診断の進展. 第37回日本消化器内視鏡学会, 1989, 5, 名古屋.
- 13) 稲土修嗣, 田中三千雄: 臨床像ならびに内視鏡像にもとづく十二指腸びらんの位置づけ. シンポジウム“胃・十二指腸びらんの諸形態と治療過程.” 第38回日本消化器内視鏡学会総会, 1989, 11, 東京.
- 14) 高原照美, 井上恭一: アルコール性肝線維症(A 1-F)の成因と特徴—特に肝線維化過程について—シンポジウム「アルコール性肝障害の病態, 経過, 予後」. 第24回日本肝臓学会西部会, 1989, 11, 福岡.
- 15) 七澤洋, 竹越国夫, 巴陵宣彦, 田中三千雄: パネルディスカッション“胃集検一次スクリーニングのありかた”内視鏡検査の立場から, 第19回日本消化器集団検診学会東海北陸地方会, 1989, 11, 富山.
- 16) 能澤明宏, 樋口清博, 杉山和子, 月城孝志, 宮際幹, 青山圭一, 井上恭一, 佐々木博: 肝細胞癌門脈腫瘍塞栓に対するLAK細胞局注療法の試み. 第75回日本消化器病学会総会, 1989, 3, 横浜.
- 17) 井上恭一, 愛場信康, 南部修二, 佐々木博: 肝細胞癌および慢性肝疾患における癌遺伝子の脱メチル化について. 第86回日本内科学会講演会, 1989, 4, 京都.
- 18) 高原照美, 中山義秀, 伊藤博行, 青山圭一, 井上恭一, 佐々木博, 大島章, 岩田和士: 慢性肝疾患における細胞外基質の局在とその産生機序に関する免疫電顕的検討. 第25回日本肝臓学会総会, 1989, 6, 金沢.
- 19) 中山義秀, 高原照美, 松崎恒一, 伊藤博行, 宮林千春, 井上恭一, 佐々木博, 吉竹佳の, 西川克三: 肝疾患における線維芽細胞成長因子の局在に関する免疫組織学的検討. 第25回日本肝臓学会総会, 1989, 6, 金沢.
- 20) 愛場信康, 南部修二, 井上恭一, 佐々木博: 肝細胞癌におけるc-myc, c-Ki-rasおよびc-Ha-ras癌遺伝子の脱メチル化について. 第25回日本肝臓学会総会, 1989, 6, 金沢.
- 21) 宮際幹, 市田隆文, 松崎恒一, 岡田和彦, 月城孝志, 佐々木博: ヒト門脈内皮細胞の継代培養化への試み. 第25回日本肝臓学会総会, 1989, 6, 金沢.
- 22) 能澤明宏, 樋口清博, 杉山和子, 月城孝志, 宮際幹, 井上恭一, 佐々木博: ラットの活性化クッパー細胞の株化肝癌細胞に対する抗腫瘍活性について. 第25回日本肝臓学会総会, 1989, 6, 金沢.
- 23) 月城孝志, 樋口清博, 杉山和子, 能澤明宏, 舟木淳, 若林泰文, 井上恭一, 佐々木博: 自己免疫性肝疾患における未梢血リンパ球サブセットおよび免疫グロブリン産生能の検討. 日本臨床免疫学会総会, 1989, 6, 広島.
- 24) 斎藤清二, 西村信行, 山崎国男, 田口恭仁子, 元尾南洋, 井上恭一, 佐々木博, 小越和栄, 丹羽正之, 堀尾留里子, 古川敏仁, 塚田裕: 多変量解析システム(CAMPAS)を用いた腫瘍マーカーコンビネーションアッセイの肝癌診断における有用性. 日本肝臓学会第20回年次大会, 1989, 7, 東京.

- 25) 田口恭仁子, 澤田勝江, 安藤隆夫, 元尾南洋, 山崎国男, 西村信行, 斎藤清二, 井上恭一, 佐々木博: 脾 giant cell carcinoma の2例. 日本脾臓学会第20回年次大会, 1989, 7, 東京.
- 26) 山崎国男, 斎藤清二, 西村信行, 元尾南洋, 田口恭仁子, 窪田芳樹, 井上恭一, 佐々木博: ハムスター実験脾癌継代移植系における細胞動態の解析(第2報: BrdU 連続標識法を用いて). 日本脾臓学会第20回年次大会, 1989, 7, 東京.
- 27) 西村信行, 窪田芳樹, 元尾南洋, 田口恭仁子, 山崎国男, 斎藤清二, 井上恭一, 佐々木博: 脾分化型腺癌由来細胞における分泌型複合糖質のレクチン結合性について(電顕的検討を中心に). 日本脾臓学会第20回年次大会, 1989, 7, 東京.
- 28) 稲土修嗣, 田中三千雄, 松崎恒一, 舟木淳, 坂東毅, 若林泰文, 島田一彦, 窪田芳樹, 藤倉信一郎, 佐々木博: 十二指腸炎例における胃・十二指腸粘膜血行動態の検討. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 10, 旭川.
- 29) 康山俊学, 土田敏博, 井上恭一, 宮際幹, 愛場信康, 佐々木博, 市田隆文: ラット化学発癌肝における Cu, Zn-SOD の分布様式の検討. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 10, 旭川.
- 30) 土田敏博, 康山俊学, 井上恭一, 佐々木博: 初代培養肝細胞に対する TNF の影響. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 10, 旭川.
- 31) 島田一彦, 松崎恒一, 舟木淳, 若林泰文, 井田一夫, 藤倉信一郎, 田中三千雄, 佐々木博, 西川克三: 胃潰瘍における線維芽細胞成長因子の免疫組織学的検討. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 10, 旭川.
- 32) 寺崎慎一, 稲土修嗣, 舟木淳, 坂東毅, 若林泰文, 島田一彦, 窪田芳樹, 藤倉信一郎, 田中三千雄, 佐々木博: 正常ヒトにおける加齢と胃・十二指腸粘膜血行動態. 第31回日本消化器病学会大会, 1989, 10, 旭川.
- 33) 田中三千雄, 佐々木博, 七澤洋, 巴陵宣彦, 竹越国夫, 奥田治爾: 胃炎と上腹部症状の関連性についての検討. 第68回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 34) 康山俊学, 安村敏, 伊藤博行, 岡田和彦, 月城孝志, 土田敏博, 中山義秀, 能沢明宏, 宮際幹, 南部修二, 稲土修嗣, 青山圭一, 窪田芳樹, 高原照美, 山崎徹, 樋口清博, 斎藤清二, 田中三千雄, 井上恭一, 渡邊明治: 非A非B慢性肝炎の IFN 治療における HCV 抗体の変動について. 第69回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 11, 金沢.
- 35) 樋口清博, 安村敏, 伊藤博行, 岡田和彦, 月城孝志, 土田敏博, 中山義秀, 能沢明宏, 宮際幹, 南部修二, 稲土修嗣, 青山圭一, 窪田芳樹, 高原最美, 康山俊学, 山崎徹, 斎藤清二, 田中三千雄, 井上恭一, 渡邊明治: 自己免疫性肝炎例における HCV 抗体陽性率の検討. 第69回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 12, 金沢.
- 36) 田口恭仁子, 斎藤清二, 山崎国男, 西村信行, 元尾南洋, 稲土修嗣, 青山圭一, 窪田芳樹, 康山俊学, 山崎徹, 田中三千雄, 井上恭一, 渡邊明治: 当院における脾疾患—10年間の動向—. 第69回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 12, 金沢.
- 37) 井本勉, 松本秀敏, 井上恭一: 抗セントロメア抗体陽性で完全型の CREST 症候群を合併した無症候性 PBC の一例. 第50回日本消化器病学会近畿地方会, 1989, 2, 京都.
- 38) 田口恭仁子, 安藤隆夫, 元尾南洋, 西村信行, 山崎国男, 斎藤清二, 井上恭一, 佐々木博, 小熊豊, 櫻川信男: DIC を伴った脾原発と思われる pleomorphic carcinoma の一例. 第142回日本内科学会北陸地方会, 1989, 3, 金沢.
- 39) 圓谷朗雄, 青山圭一, 若林泰文, 七澤洋, 稲土修嗣, 窪田芳樹, 田中三千雄, 井上恭一, 佐々木博: 胃, 十二指腸瘻孔形成をきたした進行胃癌肝細胞癌重複癌の一例. 第142回日本内科学会北陸地方会, 1989, 3, 金沢.
- 40) 池本雅仁, 中村典雄, 朝日寿実, 加藤弘巳, 矢野三郎, 圓谷朗雄: 甲状腺機能亢進症の経過中, 白血球減少・貧血・脾腫を認めた一症例. 第142回日本内科学会北陸地方会, 1989, 3, 金沢.
- 41) 市原和俊, 山崎徹, 井上恭一, 佐々木博: CML biphenotypic crisis と考えられた一例. 第7回日本血液学会北陸地方会, 1989, 5, 金沢.
- 42) 七澤洋, 竹越国夫, 巴陵宣彦, 田中三千雄: 内視鏡的マイクロ波凝固術を施行した早期食道癌の一例. 第53回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 43) 山崎国男, 斎藤清二, 西村信行, 田口恭仁子, 元尾南洋, 能沢明宏, 井上恭一, 佐々木博, 鈴木修一郎, 三輪淳夫, 北川正信: ERCP にて特殊な胆管像を呈した総胆管上皮過形成の一例. 第53回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 44) 宮元歩, 田中三千雄, 寺崎慎一, 松崎恒一, 舟木淳, 坂東毅, 若林泰文, 島田一彦, 稲土修嗣, 窪田芳樹, 藤倉信一郎, 佐々木博: Duodenal cyst の一例. 第53回日本消化器内視鏡学会北陸地方会,

- 1989, 6, 富山.
- 45) 山崎国男, 宮際幹, 荻野茂, 岩佐和典, 藪下和久, 藤井久丈, 三輪茂樹, 二谷立介, 斎藤清二: 気管支動脈分岐異常症を伴った腓体尾部欠損症の一例. 第68回日本消化器病学会, 1989, 6, 富山.
- 46) 元尾南洋, 岡田和彦, 土田敏博, 月城孝志, 青山圭一, 康山俊学, 樋口清博, 井上恭一, 佐々木博: サイトメガロウィルス (CMV) 肝炎の一例. 第68回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 47) 美濃一博, 津田基晴, 東出慎治, 大場泰良, 笠島学, 山本恵一, 元尾南洋, 野田誠, 尾島敏夫: 十二指腸平滑筋肉腫の一例. 第68回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 48) 笠島学, 山口敏之, 山本恵一, 檜垣修一, 田中三千雄, 若木邦彦, 矢後修: 切除し得た悪性黒色腫小腸移転の一例. 第68回日本消化器病学会北陸地方会, 1989, 6, 富山.
- 49) 澤田勝江, 市原和俊, 山崎徹, 稲土修嗣, 井上恭一, 渡邊明治, 稲川博光: PPO 陰性 GPIIb/IIIa 陽性芽球を認めた巨核芽球性白血病の一例. 日本血液学会平成元年度東海・北陸合同地方会, 1989, 11, 名古屋.
- 50) 芳尾幸松, 藤倉信一郎, 月城孝志, 岡田和彦, 田口恭仁子, 斎藤清二, 井上恭一, 渡邊明治, 坂本隆, 島田勝夫, 山崎一庭, 藤巻雅夫, 松井一裕, 北川正信: 超音波ガイド下生検により組織診断し得た下大静脈原発平滑筋肉腫の一例. 日本内科学会第149回東海・第145回北陸合同地方会, 1989, 11, 名古屋.
- 51) 愛場信康, 澤田勝江, 菓子井達彦, 安村敏, 稲土修嗣, 康山俊学, 山崎徹, 樋口清博, 井上恭一, 佐々木博: 骨髄移植後に発症した真菌性肝膿瘍の一例. 第24回日本肝臓学会西部会, 1989, 11, 福岡.
- 52) 高原照美: パネルディスカッション「伊東細胞」肝線維化と伊東細胞. 第3回肝類同壁細胞研究会, 1989, 12, 久留米.
- 53) 斎藤清二: パネルディスカッション「思春期における必身医学的諸問題—消化器疾患を中心として」大学生の健康管理における心身医学的アプローチ(消化器心身症を中心として). 第33回消化器PSM研究会, 1989, 3, 横浜.
- 54) 山田明, 田中三千雄: シンポジウム“超音波内視鏡の現況と将来への展望”, 食道腫瘍に対する超音波内視鏡検査. 第6回北陸消化管研究会, 1989, 6, 金沢.
- 55) 岡田和彦, 月城孝志, 宮際幹, 土田敏博, 青山圭一, 井上恭一: 肝の premalignant lesion と思われる一例. 第2回肝腫瘍生検研究会, 1989, 2, 久留米.
- 56) 中山義秀, 高原照美, 松崎恒一, 伊藤博行, 宮林千春, 井上恭一, 佐々木博, 吉竹佳の, 西川克三: アルコール性肝疾患における線維芽細胞成長因子の局在に関する免疫組織学的検討. 第9回「アルコール代謝と肝」研究会学術集会, 1989, 4, 松山.
- 57) 安村敏, 峯村正実, 杉山和子, 加藤丈士, 森田英, 市田隆文, 井上恭一, 佐々木博: 全身のリンパ節転移を主徴としたアルコール性肝硬変の経過観察中に見い出された肝細胞癌の一例. 第25回日本肝臓研究会, 1989, 5, 金沢.
- 58) 月城孝志, 宮際幹, 岡田和彦, 土田敏博, 青山圭一, 康山俊学, 樋口清博, 井上恭一, 佐々木博: 細小肝癌に隣接する線維様過形成の検討. 第25回日本肝臓研究会, 1989, 5, 金沢.
- 59) 樋口清博, 井上恭一, 康山俊学, 佐々木博, 高木健次: PBC 患者のウルソ療法中にみられる血中胆汁酸分画の変動. 第8回西日本臨床胆汁酸研究会, 1989, 7, 米子.
- 60) 岡田和彦, 宮際幹, 月城孝志, 市田隆文: ヒト門脈内皮細胞の継代培養化への試み. 第7回ヒト細胞研究会, 1989, 8, 東京.
- 61) 土田敏博, 宮際幹, 月城孝志, 岡田和彦, 康山俊学, 青山圭一, 井上恭一, 渡邊明治: 非B型慢性肝炎の経過中, 低エコー腫瘤性病変を認めた一例. 第4回肝腫瘍生検研究会, 1989, 10, 富山.

◆ その他

- 1) 佐々木博, 井上恭一, 樋口清博, 高嶋清次: 医療従事者における年齢別 HA 抗体保有率の年次推移. 厚生省肝炎連絡協議会昭和62年度研究報告: 19-21, 1989.
- 2) 田中三千雄: 序; 電子スコープの未来—“知覚されなかった貌”の発見—. 消化器内視鏡 1: 435-436, 1989.
- 3) 斎藤清二: 内科領域における心身医学的アプローチ—内科診療とカウンセリングの接点—. 富山医師会報 224: 6-9, 1989.